

第63回 水道週間

児童生徒作品展
入賞作品集

会津若松市

第63回水道週間児童生徒作品展入賞作品集

【図画の部】

- ・ 小学校低学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 1
- ・ 小学校高学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 4
- ・ 中 学 校（市長賞・市議会議長賞）…………… 7

【書写の部】

- ・ 小学校低学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 9
- ・ 小学校高学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 10
- ・ 中 学 校（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 12

【標語の部】

- ・ 小学校低学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 14
- ・ 小学校高学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 15
- ・ 中 学 校（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 16

【作文の部】

- ・ 小学校低学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 17
- ・ 小学校高学年（市長賞・市議会議長賞・教育長賞・管工事協同組合理事長賞・上下水道事業管理者賞）…………… 25
- ・ 中 学 校（市長賞・市議会議長賞）…………… 34

【図画の部】

〈小学校低学年〉



〔市長賞〕 会津若松市立城南小学校 3年 貝尾 珠季



〔議長賞〕 会津若松市立門田小学校 3年 遠藤 友乃



〔教育長賞〕 会津若松市立謹教小学校 3年 佐々木 星花



〔理事長賞〕 会津若松市立城南小学校 3年 山川 彩斗



〔管理者賞〕 会津若松ザペリオ学園小学校 3年 佐々木 あおい

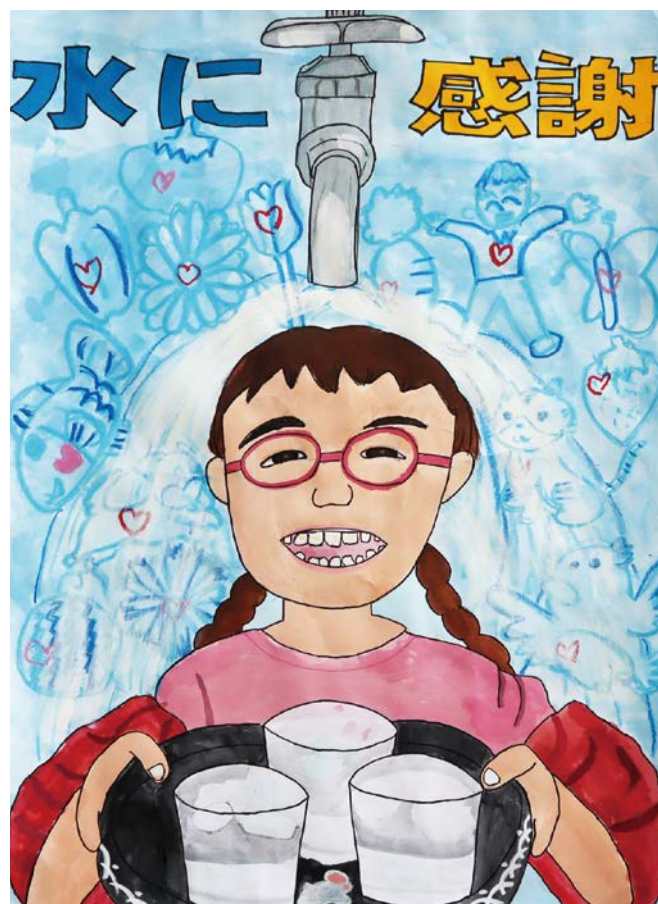
■ 審査講評

水をつかってあそんだ思い出やのどがかわいたときのんだ水のおいしさ、庭の草花に水をやったら生き生きしたことなどがすなおにかかれています。じぶんが感じたこと、思ったことを大きくはっきりとかいた作品が賞に入りました。

身のまわりの水にふれたことはもっともたくさんあるはずです。みぢかな水をゆつくりとみつめなおしましょう。もっともっと水の世界やありがたさがみえてくるでしょう。

「あっ、こんなところでも……」と気づくこともあるでしょう。いろいろな材料やどうぐで絵にあらわしながら、ぐんぐん育ってほしいと思います。

〈小学校高学年〉



〔市長賞〕 会津若松市立河東学園（前期課程） 6年 渡部 小夏



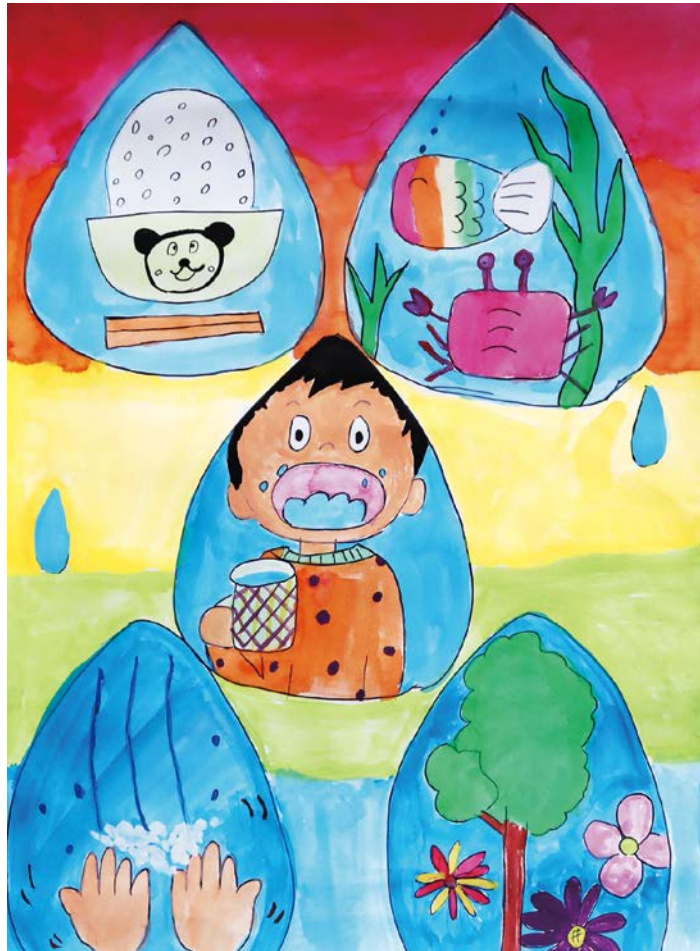
〔議長賞〕 会津若松ザベリオ学園小学校 5年 愛澤 華蓮



〔教育長賞〕 会津若松市立鶴城小学校 6年 佐々木 優花



〔理事長賞〕 会津若松市立一箕小学校 5年 北里 紗菜



〔管理者賞〕 会津若松市立永和小学校 5年 菊地 康介

■ 審査講評

水と自分たちの命や生活との関係をしっかりと考え、大切にしようとする気持ちが伝わってくる作品が多く見られました。どの作品も画面の構成や色づかいを工夫し、自分の考えを表現していました。水を飲んだり、水を使ったりしたことを思い出しながら、水についての想いを表現していることが伝わってきました。

これからも、自分の気付きを大切にしながら表現することを楽しんでいって欲しいと思います。



〔市長賞〕 福島県立会津学風中学校 3年 小野 穂花



〔議長賞〕 会津若松市立北会津中学校 3年 佐藤 大志郎

■ 審査講評

応募総数が9点と大変少なく残念でしたが、それぞれが工夫して表現していました。絵の具の扱い方がうまく、重ね塗りやグラデーションなどを使って美しく表現されている作品もあり、さすが中学生と思わせるものでした。その中でやはり目が惹かれるのは、テーマである「水」の何を表現したいのかが、しっかりと伝わってくる作品です。相手に何を伝えたいのか、伝えるためにはどうしたらいいのかを熟考し、アイディアを練ることにより一層魅力的な作品になると思います。

【書写の部】

〈小学校低学年〉



〔議長賞〕

会津若松市立城西小学校
3年 亀山 莉央



〔市長賞〕

会津若松市立鶴城小学校
2年 土橋 世佳



〔理事長賞〕

会津若松市立小金井小学校
2年 眞野 悠人



〔教育長賞〕

会津若松市立日新小学校
3年 讃岐 怜華

■ 審査講評

上位の作品は用筆法がしっかりしています。二字の作品で文字のバランスがとりにくく、「み」の大きさに対して「ず」がのびのび書けていない作品が見られました。用紙によって作品の見た目が異なるので清書の際の用紙は十分吟味し、墨色とともに墨の濃さにも注意してほしいです。筆勢は感じられるが文字のかすれが多すぎるものは書写の作品として良くありません。年々作品数も増し、良い作品も多くなりつつあるのは大変望ましいことです。小学校低学年は大部分の児童がはじめて毛筆による書写を学習することになるので、毛筆書写の楽しさと同時に毛筆の基本を丁寧に指導してほしいです。作品全体としては、学校での指導がよくなされていると思われるものが多くなりつつあります。



〔管理者賞〕

会津若松市立城南小学校
2年 君 光平

〈小学校高学年〉



〔議長賞〕

会津若松市立日新小学校
6年 讚岐 朋華



〔市長賞〕

会津若松市立河東学園（前期課程）
6年 渡部 小夏



〔理事長賞〕

会津若松市立行仁小学校
5年 安田 早矢



〔教育長賞〕

会津若松市立一箕小学校
6年 森 日陽花

■ 審査講評

しんによう、右はらいのある文字を含む四文字のこの課題は、バランスよく半紙に収めるのが大変難しいものです。出品された作品は、そこに苦心している様子がうかがわれました。そんな中でも上位の作品は一画二画丁寧に書かれ、運筆もスムーズで字形や大きさが配慮されてバランスよく書かれていました。学校名、学年、氏名も作品の一部となります。バランスをとることは難しいですが、大きさ、位置について作品全体を考えながら、丁寧に書くことができよう、練習していくとさらによいと思います。作品の汚れ、規定通りではない作品が見られたのが残念でした。指導の際に留意していただきたいです。



〔管理者賞〕

会津若松市立鶴城小学校
6年 菅原 杏樹

〈中学校〉



〔議長賞〕

会津若松市立第一中学校
3年 安田 可歩



〔市長賞〕

会津若松市立第三中学校
3年 星 董心



〔理事長賞〕

会津若松市立第一中学校
3年 星 千陽



〔教育長賞〕

福島県立会津学鳳中学校
2年 山田 絵里加



〔管理者賞〕

会津若松市立第二中学校
3年 高橋 里緒

■ 審査講評

四文字の課題でしたが、全体的に調和のとれた作品が多く見られました。一年生は、まだ行書に慣れていないのでしょうが、楷書から少しずつ行書の特徴を交えて書こうとしている意識が伝わってきました。二、三年生は、行書の筆づかいに慣れ、連続の難しい部分をよく練習した力作が多く見られました。行書らしいやわらかさが感じられました。全体的に、レベルの高い作品が多くありましたが、さらに点画の連続を意識して練習に励んでほしいと思います。

【標語の部】

〈小学校低学年〉

〔市長賞〕

会津若松市立門田小学校 二年 小張 陽愛

ポタポタポタ
ポタポタ
じゃらの水が
ないてるよ

会津若松市立門田小

学校 二年

氏名 小ばりひな

〔議長賞〕

会津若松市立小金井小学校 三年 福田 和

きれいな水で
手あらいうがい
ウイルスたちとも
ディスタンス

会津若松市立小金井小 学校 三年

氏名 福田和

〔教育長賞〕

会津若松市立城西小学校 一年 星野 瑚知

おかあさん
すいとろりょうと
にらめっこ
まずは じゃぐちを
しめようよ

会津若松市立城西小 学校 一年

氏名 ほしの 瑚知

〔理事長賞〕

会津若松市立鶴城小学校 二年 兎玉 莞

かくいしょう
いろいろなもの
をきれいに
水ってすごい

かくいしょう 小学校 二年

氏名 兎玉莞

〔管理者賞〕

会津若松市立門田小学校 三年 菅山 怜来

いただきます
安心おいしい
あいづの水

会津若松市立門田小

学校 三年

氏名 菅山 怜来

■審査講評

自分の身近な体験に基づいた作品が多く見られました。また、手洗いやうがいによる感染症予防を呼びかける作品も多い印象を受けました。

低学年らしく感じたことを素直に表現することで生まれた言葉は、語感が柔かく好感が持てました。今後も水と触れあい、自然や水の大切さを感じたり、考えたりしながら生活してほしいと思います。

〈小学校高学年〉

〔市長賞〕

会津若松市立行仁小学校 四年 村越 叶和

行仁小 学校 四年 氏名 村越 叶和

水しげん
学んで 守ろう
エスデイージーズ

〔議長賞〕

会津若松市立大戸小学校 五年 鹿目 暁生

橋野原会津若松市立大戸小学校 五年 氏名 鹿目 暁生

飲んで^{のん} 使^{つか}って 快^{くわい}適^{じつ} 水^{みづ}道^{みち}水^{みづ}

〔教育長賞〕

会津若松市立城南小学校 五年 坂内 侑平

城南小学校 五年 氏名 坂内 侑平

十年後の地球につなげ

水のバトン

〔理事長賞〕

会津若松市立東山小学校 六年 小原 萌愛

会津若松市立東山小 学校 六年 氏名 小原 萌愛

災害時

今更思^{いま}う

水^{みづ}の^のと^とと^とと^とと

〔管理者賞〕

会津若松市立城北小学校 四年 岩田 愛琉

城北小 学校 四年 氏名 岩田 愛琉

手^てあ^あら^らい^いの
大^{だい}事^じ々^々キ^きわ^わ立^たっ
ウ^うイ^いズ^ズコ^こロ^ろナ

■ 審査講評

高学年の部では、自己の体験だけではなく、地域や未来、地球全体の環境へと思いを広げている作品が多く見られました。自分だけではなく、この先を生きる人々や水を提供してくれる人々などへ視野を広げて考えてくれている点が素敵でした。

押韻などでリズムを作ることや、表現を工夫することでより読み手が想像でき、印象に残る作品ができると思います。

〈中学校〉

〔市長賞〕

会津若松市立第二中学校 二年 安孫子 夏鈴

会津若松市立第二中学校 二年

氏名 安孫子 夏鈴

部活後の体潤す

美味しい水

〔議長賞〕

会津若松市立北会津中学校 三年 藤原 遥風

会津若松市立北会津中学校 三年

氏名 藤原 遥風

おいしさに
こぼれる笑顔 福の水

〔教育長賞〕

会津若松市立第四中学校 二年 齋藤 佑太

会津若松市立第四中学校 二年

氏名 齋藤 佑太

ウイルスを

通ヤめ門番

水の辟土

〔理事長賞〕

会津若松市立第三中学校 二年 鈴木 里桜

若松第三 学校 二年

氏名 鈴木 里桜

変わりない

いつもの水に

日々感謝

〔管理者賞〕

会津若松市立第四中学校 一年 鈴木 歩乃歌

若松第四中 学校 一年

氏名 鈴木 歩乃歌

人生に

いつも寄りそう

水がある

■審査講評

SDGsやコロナウイルスという観点から作られた作品や、水を未来へと守っていく必要性を訴えた作品など、社
会へと向けた作品が多数ありました。広い視野を持ち、様々
な角度から水の大切さについて考えようとしたことがうか
がえました。

今回の応募をきっかけに、水の大切さについてより意識
を高めていってほしいです。

【作文の部】

〈小学校低学年〉

〔市長賞〕

会津若松市立門田小学校 3年 遠藤 友乃

くらしをささえるまほうの水

門田小学校 三学年 遠藤 友乃

私は水が大好きです。私も家族もたくさん水を飲んでいきます。私はお母さんに、「なんでつかれていても水をのむと元気になるのかな。」

と聞きました。もしたらお母さんが、「人間の体のほとんどは水だ、っておばあちゃんから教えてもらったよ。水は生き物の命を守ってくれているし、毎日の生活にもか

かせないよね。だから大じにしないよね。」と言いました。人間の体は水でできている！だから水をのむと元気になるのかな？私は、生き物の命を守ってくれる水、てすごいと思えました。そして、その水をすぐにだしてくれる水道、てありがたいと思いました。私はそんな大切な水が、私たちの生活の中で、どんな時にどれくらい使われているのか知りたくな、て、水や水道のかんさつをすることにしました。

つぎの日、朝起きて歯をみがきました。さくさく水を使いました。かおをあらう時も水、トイレでも水、手をあらう時も水を使いました。朝起きて五分くらいしかたっていないのにもう四回も水道のおせわになっ、ています。朝ごはんは、ごはんとおみそしる、サラダ、そしてお水でした。まず水をのびました。私は、お母さんに、「今のんだ水のほかに、おみそしるにも水が使われていま、す。」

と言うと、お母さんが、「ピンポーン。ほかに？」と言いました。え？ほかに？ごはんもサラダもちがうなと考、えていると、「ごはんをたたくときも水を使うよ。だからごはんに水がたっぷりふくまれているよ。サラダのやさいもはただで水をあげて育、たものだし、あらう時も水を使、たよ。」と教えてくれました。朝ごはんのほとんどに水が使われていたなんて。だからごはんもふ

つくろだしやさいもみんなにみずみずしくて
 おいしいのか、と鬼いました。私はお水たっ
 ぷりの朝ごはんを食べて学校へ行きました。
 学校でも、手あらいうがいをしました。と
 くに今はコロナよぼうで今までよりたくさん
 水道を使います。給食の時間は、ごはんやヤ
 さいを見て、「ここにも水だい」と思いました
 家に帰ってまた手あらいうがい、はたけや
 花だんへの水やり、お水がたっぷり使われて
 いるばんごはん、そしてすごい水のりょうの
 おふろ！今まで気がつかなかったけど私たち
 の生活の中になんども水がとうじょうしてい
 たということが分かりました。こんなに何ど
 も使う水をすぐにだしてくる水道があるっ
 てなんてべんりなんだろう。つかれても水と
 のおと元気が出るし、お花に水をかけるとき
 れいにさいてみんながえがおになる。水道、
 て、ふしぎな力があるまほうのステッキみた
 い。いつまでもまほうの力がきえないように
 みんなで大切に水を使いたいと思いました。

【議長賞】

会津若松市立城北小学校 3年 渡邊 結菜

| | | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|---------------------|
| 水の旅 | 城北小学校 | 三年 | 渡邊 | 結菜 |
| 水道代のハガキがとどいた時に、 | 下水道料金もかかるからね。 | とお母さんが言いました。わたしは、 | 「ゲスイドウ、て何？」 | と聞きました。すると、お母さんは、 |
| 水道から出る水には、お金がかかっている | んだけど、使、て流す水にもお金がかかる | んだよ。」 | と言いました。 | わたしは、こういう意味だろうとぎもんに |
| 思い、水道のことがも、と知りたくな、て、 | 図書館で水道のことが書かれた本をかりまし | た。 | 本を読んでおか、たことは、水道には、上 | 水道と下水道とがあるということでした。 |
| 上水道は、くらしに使う水の水道のことで | 川から水を取りこんで、じょう水場できれい | にした後、給水所へ送、て、そこから家や学 | | |

校に水道管を通りて送られていきます。

下水道は、トイレやお風呂、台所などで使
いおちった水を集める水道のことで、下水管
を通りて下水し、リ場に集めて、きれいにし
てからもとの川や海に流しているということ
です。

水道のじや、口から出る水は、とても長い長
い旅をしていることにおどろきました。

わたしたちは、上水道のおかげで、いつで
もきれいでおいしい水を飲んだり使ったりす

ることができて、下水道のおかげで、せいけ
つなかんきょうでくらすことができています
ということがわかりました。水道は、わたした
ちが生きていくためにとても大切なものだ
とかんじました。

わたしのお母さんは、料理をしたフライパ
ンやよごれのひどいお皿は、水であらう前に
キッチンペーパーなどでよごれをふきと、こ
います。お母さんは、

「あらう前にふけば、あらう水が少なくてす

むし、流す水もよごれないでしょ。
と話していました。その時は、ただ聞いてい
ましたが、お母さんは、考えて水を使ってい
たんだなと思いました。

わたしも、使う水だけではなく、使った後
の水のことも考えて、水を大切に使いたいで
す。

「水を出したら、はなれないで」

日新小学校 二年 岡部 恵菜

わたしは、一年生のときのこととくのかかに、「サバンの子ども」というおはなしを読みました。アフリカのサバンのキウオ村には、水道がないので、その村の子どもは、やおきして、村に一つしかないきょうどういどまで、まい朝水くみにいくそうです。そして、また学校からかえると、水をくみにいくのです。わたしは、たいへんだなと思いました。

「なぜか」といつと、わたしは、まい日であらいやおそうじやおふろやおみぎなどに水道の水をつか。ていて、いや口をひねればひてくるかうです。わたしは、せかい中のみんなが、水道から水がでるせいかつをしていると思っ、いたけど、サバンの子どものことをして、日本に生まれてよかつたと思っました。

もし、いまのように、水道から水がでなくなつたらどうすればいいでしょうか。わたし

は、サバンの子どものように、きょうどういどに行くことができません。ちかくにいいかないからです。あつたとしても、はやおきして、水くみをしたあと、学校にいつたう、つかれていて、いねむりをしてしまふかもしれせん。わたしは、水を、もつたいせつに、つかわなくてはいけないと思ひました。

わたしは、そまが水をたいせつにしているのをちかくで見えています。それは、雨の日に、いようろや、バケツをそとにおいて、やねの下からおちる水をためていることです。そまに、そのりゆうを聞いてみると、

「その水を晴れた日に、やさいや、花にあげるためだよ。雨の水をためて、しせんの水をあげる、ことが、やさいや、花にとっていいんだよ。」

と話してくれました。わたしも、そまのように、やねの下に、いようろをおいて、水をたいせつにしていこうと思ひます。

わたしは、学校で友だちが水をむだにして

いるところを見たことがあります。あたしの学校では、シャワーするとき、牛に使うパックをあうための水をよいするかわりがあります。そのときに、バケツに水道の水をくむのですが、水を出したら出たままどこかにいっってしまう人がいます。こんどおなじことがあったら、ゆうきを出していおうと思います。

「水を出したら、はなれないで、そこについてね。水道の水は、たいせつだよ。」

と。

〔理事長賞〕

会津若松ザベリオ学園小学校 3年 穴澤 沙羅

毎日の暮らしについて考えた事

会津若松ザベリオ学園小

三年 穴澤 沙羅

わたしは、学校のSDGSいいん会に入りました。なぜこのいいん会に入ったかというと、学校にカラフルなポスターがはってあって、学校になつた事と、前に家ごと、SDGSの事を話していて、もつとくわしく知りたいと思つたからです。お母さんと本やさんへ行つて、調べてみる事にしました。今まで

自分が知らなかつた事や、ふだんは気にしなかつた事が書いてありました。十七の目ひょうがあり、その中で一番おどろいた事は、六番目の目ひょう、「あんぜんな水とトイレをせかい中に」というこの目の中の「二千二十五年には、せかいの人口のやく三分の二が水ぶ足になるとよそくされている」ということです。お母さんになせ水が足りなくなるのかを聞いてみました。お母さんは、「せかいの人口がふえたり、温だんかのえい

きょうもあるんじゃないかな。

と言っていました。本を読んでみると、食べ物を作ったりする水や、トイレで使う水もひつようだという事が分かりました。日本では水を当たり前に使っているけれど、せかいでは当たり前前にはないという事も分かりました。人口がふえるとその分水がひつようになるそうです。

そこで、家族と自分たちができる事について話をしました。いろいろなアイデアが出てきました。たとえば、雨水をためてにのしよく物に水をあげる事や、せんざいを使いきかない事、りよう理を作る時に、野さいをポウルの水であらったり、多く作りすぎない事などです。お母さんは、

「生活はい水なるべくよごさないように心がけると、川の生き物や、海の魚も元気にす

ごす事ができるよね。」
と言っていました。水は、まわりまわって、すべての生き物にひつような物だという事に

気がつきました。

今回、本で読んだ事や家族で話した事をよん考に、SDGSいいん会での活動では、みんなと水の大切さや、かんきょうについてよく話し合い、わたしたち一人ひとりができる事を実行して、目ひょうをたせしていきたいと思います。水は、せかい中の海につながっているの、せかい中の人かきょうかしかければなりません。みんながしあわせにくらしめていけるきれいな地きょうにしたいです。

水を大せつにつかいたい
 一箕小学校 二年 中村 のぞみ
 「たくさんお水がながれていてすごいな。」
 わたしは、えん足でいいもり山に行きました。
 た。そこで、水がながれているとつくつを見
 ました。白しろたいの人たちがにげてきたどう
 くつです。とてもたくさんのお水がながれてい
 ておどろきました。
 いえにかえっておばあちゃんにどうくつの
 ことをはなすと、
 ー
 「どの口せぎね。いなあしろこからあいつわ
 かまつしまで水をひくためにつくられた、
 水ろなんだよ。」
 とおしえてくれました。
 との口せぎは、えどじだいにつくられたそ
 うです。この水ろができるまでは、はれの日
 がつづく、水がたりなくなり、こま、たこ
 とがあったそうです。
 水は、わたしたちが生かすのにとても
 大せつです。お米ややさしいも、田んぼやはた

けに水がないとそだちません。いえでもまい
 日、水をつかいます。手をあらったり、おぶ
 ろに入るたり、せんたくをしたり、おりやう
 りをするのにもつかいませす。もし水がなくな
 ったら、それがせんぶできなくなってしまう
 ます。
 たくさんのお水を手に入れるために、水ろを
 つくったえどじだいの人はすごいなとおも
 いました。
 ー
 そしていまでは、じゃ口をひねるときにい
 な水が出ます。この水は、いなあしろこから
 水ろでひいてきたものを、じょう水じょうと
 いうところできれいにしてから、いえや学校
 までとどけてくれているそうです。そのおか
 けて、まい日おいしい水をのむことができます
 す。びょうきにかからないために手をあらう
 ことができます。
 わたしは手をあらうときやシャワーをあび
 るときに、水を出してばなしにしてしまうこ
 とがあります。そのたびに

「お水がもったいないよ。」

「はやくしめなきゃい。」

とおこられてしまいます。ずっと

「そんなにおこらなくてもいいのよ。水はた
くさん出るんだから。」

とおもっていましたが、たいへんなおもいを
していなわしろごから、水をはこんできたえ
どじだいの人や、まい日あんぜんを水をつく
ってくれているじょう水じょうの人たちのこ
とをかんがえると、やっぱり大せつにつかあ
ないといけないなと思いました。

これからは、もっと水のことをおんぎょ
うして、大せつにつかっいていきたいです。

審査講評

市長賞の作品は、実際の生活の中で感じたことをもとに
記述しており、わかりやすく、人間の生活に欠かせない水
を「まほう」という言葉で表現した点が良かったです。

議長賞の作品は水道のことを調べるのに、インターネッ
トで簡単に検索するのではなく、わざわざ図書館まで足を
運んで勉強する態度が好ましく、うれしいです。教育長賞
の作品はタイトルがわかりやすくユニークで、理事長賞の
作品は、SDGsという17分野の持続可能な開発目標を取
り上げており、知っているのに驚きました。

小学校低学年は応募点数が全部で14点というのは寂しい
気がします。コロナ禍で、いかに水に関心をもってもらえ
るか工夫が必要だと思えます。

〈小学校高学年〉

〔市長賞〕

会津若松市立神指小学校 4年 永井 花歩

私達の生活と水道

神指小 四年 永井 花歩

私達は水道を毎日使います。例えば、外から帰って来て手あらいうがいをする時、歯みがきをする時、しよつきをあらう時、お湯をわかす時などです。私は、水は大切だと思います。

昔は、井戸をほっておけに水をくんで運んでいたそうです。家の近くには手おしポンプがあります。実さいに手おしポンプを動かして

てみると、水が出て来るまで時間がかかってとてもつかれました。そして、これを家まで何回も行ったり来たりして運ぶと考えると昔は大変だ、たんだなと思っ、たし、水を使うまでこんなに時間がかかったことにおどろきました。

今はじゃ口をひねればかんたんに水が出て来て、すぐに使うことができます。とてもべんりになったけれど、この水がどこから来ているのか、考えたことがあります。川の水

をきれいにして使っているのかなと、なんとなく思っていました。そこで実さいにどこから水が来ているのか調べてみました。

まず、水道水はじょう水場というしせつできれいにしていることがわかりました。会津若松市のホームページを見ると、どこのじょう水場の水がどの地いきまで運ばれているかわかる地図がのっていました。自分の家や学校はったきざわじょう水場というじょう水場できれいにした水を使っています。たき

ざわじょう水場の水げんは、いなわしろ湖から流れる川の水でした。いなわしろ湖の水を私達が使ったり飲んだりしているとは思っていなかったのでも意外でした。

いなわしろ湖の水は、全国百八十八の湖しよを対しえうに順位をつけた平成三十年度の水しフランキング全国第十四位でした。ですが、湖の水はじょう化をしないと飲めないそうです。なぜじょう化しなければならぬのかという、動物や魚のフン、土ぼこり、人

か捨てたゴミなどがふくまれていているからです。じょう化作業をしなければ、感せんしょうにかかってしまうかのうせいがあるからです。じょう水場では、水をろかしてさいきんやゴミなどをとりのぞいて、人が飲めるくらいきれいにしています。何万人もの人が毎日きれいな水を使えるくらいじょう化しているじょう水場はすごいしせつだと思いました。

じょう水場の仕組みを調べていくうちに、水道の大切さがとてもよく分かりました。それは、井戸から水をくんで運ぶ必要がなく、病気にもならないきれいな水をいつでも使えるからです。これからは、水を使う時は、きれいな水を飲んだり、使ったりできることに感しゃしてむだ使いせず、使おうと思います。お水さん、ありがとうございます。

〔議長賞〕

会津若松ザベリオ学園小学校 4年 愛澤 莉杏

会津っていい所だね

ザベリオ小学校 四年 愛澤 莉杏

私の家では、毎年秋になると会津でしゅうかくされた新米をおじいちゃんの家を送ります。また、おじいちゃんのおたん生日には会津のお酒を送ります。そして、おじいちゃんはいつもこう言います。

「やっぱり会津のお米はおいしいなあ。」
「会津のお酒はおいしいなあ。」

私のお父さんも、お酒が大好きです。お父さんはお酒を飲みながら、

「会津っていい所だね。お水とお米がおいしいからお酒もおいしいんだよ。」
と、にこにこえがおで私に言います。

私は、お酒とお水とは関係があるのかなと思ひ、お酒とお水してお酒の原料となるお米との関係について調べてみました。

まず、お酒の成分の八十パーセントは水でできています。という事におどろきました。お酒用に育てられた酒米をおしたり、アルコール

を発こうさせるこう母のはたらきを助けたり、お酒ののう度を調整したりと、お酒をつくる工ていのいろいろな部分で水が使われています。その結果、お酒の中に水が多くふくまれていることわかりました。その水が良しつであればあるほど、おいしいお酒がでさるのだと思いました。

次にお米です。会津は全国でも有数のお米の産地です。田植えをする時、田んぼは水でみたされていきます。まさに水田という名前が

ぴったりです。こんなにたくさん水にかこまれていねは育つのですから、水のしつが良くなければおいしいお米はできないと思います。

会津は全国てきに見ても、雪が多い地いさです。山などにふりつも、た雪が、地面にしみこんでいろいろなえいようやミネラルなどをふくみます。そして、雪どけとともに川にえいようがたくさんふくまれた水が流れ、おいしいお米がでさるのだと思いました。会津

のおいしい水と、そのお水を使ってさいばいされたお米、その二つがそろっているので、会津のお酒はみんなからおいしいと言われているのだと思いました。

しかし、このような水のサイクルが近年、くずれつつあることも知りました。地球温だん化にもなう気候変動が原因と言われています。会津をふくめ全国てきに、年々雪が少なくなっできています。去年は、スキー場に雪がなくて、スキー場が営業できなくなっ

てきました。雪が少ないと雪どけ水がひつようないな作にも関係してきます。また、夏のいじょうな高温や強い台風、大雨なども植物の成長にえいきょうするのではないかと思ひます。実際に、台風で倒れているいねを見るので大丈夫かなと心配になります。世界では、大規模な干ばつや洪水などがひん発し、農作物の生産量が減少している国もあるそうです。そして、水や食料をめじって人々が争い、苦しんでいる地いきもあります。

私たちの住む日本では、安心安全な水をか
んとんに手に入れることができず。しかし、
このことは世界で見れば当たり前前の事だ
はありません。自然の水は少なすぎても、多
すぎても人々の生活は困ります。そして、干
ばつや水害などの原因となる地球温暖化を
引き起こしているのも私たちのくらしなので
す。

福島県、特に私の生まれ育った会津はお米
も野菜もお酒もおいしい場所です。これから
も、会津のお米や野菜、お酒をおじいちゃん
たちに届けて、いつまでも長生きしてほしい
と思います。そして、安心安全な水をこれか
らも使い続けるためには、より一層水に対す
る意識、地球温暖化に対する意識を高く
めていく必要があると思います。

〔教育長賞〕

会津若松市立一箕小学校 4年 中村 大

大切な「命の水」

一箕小学校 四年 中村 大

「命の水」
「百のしんりょう所より一本の用水路」
これを合言葉に日本から遠くはなれたアフ
ガニスタンで用水路作りを続けた日本人のお
医者さんがいた。

中村哲先生というお医者さんは水も病院も
ないこの国にくらす人たちを助けるための仕
事をしていた。

水がないってどういうことだろう。

人間が生きるために水がなくてはならない。病気を予防する
ためには水が欠かせない。病気を予防する
ための手洗い、うがいをするためにも水が
ようだ。何より、お風呂やせんたく料理と私
たちは毎日たくさんのお水を使っている。

水がないということだ。つまり、私たちのふつう
の生活ができなくなってしまうのだ。

アフガニスタンでは、ただ水が続き、水
が足りなくなってしまう。そのため、のど

はカラカラ。畑の野菜もかれ食べ物がなくな
り、生きることが大変だった。子どもも大人
も体が弱って病気になる、つぎつぎと病院に
やっってきたそうだ。

そこで、中村先生は「薬で病気を治す前に
水がいる」と考えて井戸をほることにしたそ
うだ。その井戸のおかげで飲み水は手に入る
ようになった。たけれど、畑の野菜にあげる水は
まだまだ足りない。すると今度は、川の水を
村に届ける水の通り道「用水路」作りを始め

た。その用水路のおかげで畑に水が行きわた
り、小麦や野菜などができるようになった。
もともとさばくだったところが緑に生まれ変
わり人々は生活ができるようになったのだ。
世界にはまだ安全な水を手に入れることが
できない人たちがたくさんいる。にござい
ないせいな水を使っている人たち、重い水を
何時もかけて運ばなければならぬ人たち
、水道があっても一日何時間か、または週に
何時間しか水が来ない人たちもいるという。

じゃ口をひねればきれいな水がいつでも出て
くる日本はとてもめぐまれているということ
が分かった。

水は生活にひつような物であるだけでなく
私たちを病気から守ってくれてもいる。日本
の水道水の安全性は世界でもトップクラスな
のだそうだ。そのおかげでコレラなど水が原
因の一つとなる病気は日本ではほとんど見ら
れない。それだけではなく、インフルエンザ
や新型コロナウイルスなどの予防にも、水で

手あらい、うがいをするのが一番効果的だ
と言われている。まさに「命の水」なのだ。
中村先生はじゃうでうたれてなくなっ
てしまった。でも、世界中で「命の水」を守るた
めの活動は続いている。ぼくも、自分で出来
る事から始めよう。安全できれいな水が使え
る事を当たり前と思わず、大切に使う。そ
して、世界中のどこでも、じゃ口から出るき
れいな水を何も気にせず飲める日が来ればい
いなと思う。

〔理事長賞〕

会津若松市立行仁小学校 6年 遠藤 莉心

私の生活と水

行仁小学校 六年 遠藤 莉心

人の生活には、水はかかせません。朝起き
て夜寝るまでの間水を口にしたり、何かする
ために水を使ったりという当たり前のことを
考えておきました。

少し前に、家の水道から赤いサビ水が出る
トラナルがかりました。お父さんとお母さ
んは、「水道の水がよごれてりる」とおぼろ
いていました。その日は、水道の水を使うこ
とができはいまま夕食の準備をすることにな
りました。お木は買って来たペットボトル水
でたくなじ、そのほかの食事も同じ様に買っ
て来た水で作ることにしました。私は今よ
りも小さいころの事ばかり不思議そうにその
様子を見ていたそうです。

水道の水が使えないことを心配したお父
さん、会津若松市の水道局に電話をしてお
ろこ近くで水道管のトラナルが発生してい
るために、水道水が赤くなっています。

こと分かりました。トラナルが解決するま
での時間は不明で、口にすると不安な
あれは、給水対応をしてくるとの事がある
様子で、私達家族は、給水を待つことにし
ました。しかし、すぐに水が届くことはなく
心配していました。水道水の赤サビで困っ
ている家が私達だけではないかと、この事を
知ったのは、水が届いた時でした。水道管の
トラナルで電話の相談も受ける人、給水をす
る人たち、私達を助けるために休まずに働
いてくれていいる事を知ったのです。実際に水
が届いたのは、夜九時半ごろでした。「おそ
くはりました、お待たせしました。おやす
み」と言われたそうです。話をきいてりて
私には、ありがたそうに話をしてもらって
おりました。休み中に水を届けてくれた人は
私の生活を支えてくれるために来てくれたか
らです。

お口を開ければ水が出る生活が当たり前だ
と思っていた私は考えました。常に生活のため

に、水道の管理をしてくりている人加りる事、だからこそ水を大切に使用なければならぬ。争やす。こいからもしや、口を開けるために考ふる時間かあればいいなと思つていませう。そして、そんな経験を周りの人に伝えること。一滴の水も大切なのだと感じてくれる人加増えれば、良いなと思つていませう。

また、私か今考つている事は水の節約です。必要な時に、必要分の水を使える様に、水を出し、ばなしにしない工夫の仕方を調べ、

ほ、生活する人々加、もつと水を大切に作る気持ち加大きくなると思つていませう。そして、私もたまに、水をだし、ばなしにしたり、水を、おだにしてしまふことが多いので、自分で、気をつけていたりしていきたくです。なので、まわりの人が、水をだし、ばなしにしていて、り、水をおだにしてしまふよう作らして、いたら、私か、ばなしにしたいと思つていませう。水の大切さがわかりました。

〔管理者賞〕

会津若松市立荒館小学校 5年 遠藤 駿太郎

水道の安全とデジタル技術
荒館小学校 五年 遠藤 駿太郎

ほくたちが安全に安心してくらせる日常生活を支えているものは何でしょうか。それは、毎日何気なく使っている水道だと思います。最近大きな地震がありました。ほくの住む会津若松市では、大きな被害はありませんでした。でもテレビのニュースからは給水車から生活水をもらうために長い列ができている光景が目に見えびこんできました。地震などの災害でどんな水が起きると、ほくたちの生活は突然としてできなくなってしまうことを実感しました。

水道は、みずのみち、と書きます。今の生活では、水を飲みたければシャウをひねればよいだけです。でも生活と水の関係については、実際に見たり、図書館などで調べてみると、今の生活とは違うことが分かってきました。

ほくは、祖母の生まれた地域のお墓そうじに毎年行つていませう。祖母の生まれた家のそ

ばには山から流れてくる水を引いて貯めている池があります。父に聞くところ池でにじりをと、きれいにした水を家の中に引いて使っているんだよ。」と教えてくれました。

また水の歴史を調べてみると、江戸時代では、井戸を共有使用しているだけでなく、その井戸から木や竹でできた管で家々に水を運んでいたことが分かりました。じゃ口はありませんが今の水道に似ています。

現在は、浄水場から金属の管で家々に水を運んでいます。でもその管は、地下を通っているのを目にすることがほとんどありません。どうやって水漏れなどを管理しているのでしょうか。そのヒントは市政だよりにあります。そこからぼくは、思いもしないことを学ぶことができました。それは、Aーヤー。Tを活用した水道の管理です。

まず、Aーを活用した水道管の劣化度調査です。この調査は、これまでの配管状況や過去の水漏れの記録と、水道管の劣化につな

る地域ごとの土の性質、地下水、交通量などのエリア情報を合わせてAー診断することです。水漏れが起きやすい場所を予測するものです。見えない物が見えるようにする、「水道管の見える化」といいます。

また水道管の水漏れを監視する調査があります。水漏れ調査は、人による音聴調査が主な方法です。この調査は、直接人が耳で聴いて調べるため、通行量が多かったり、雪が積もる会津では冬にこの調査を行うことができません。それを解決するのが、ロガーという記録装置です。

まず水道管のマンホールにロガーを取り付けていきます。そのロガーから、水圧や音圧の情報を集めます。集めた情報を水道局で分析し、異常を感知します。この方法だといつでも水漏れの情報をとらえることが可能です。学校では、ぼくたちもデジタル授業を取り入れていきます。例えば電子黒板を使ったり、タブレットなどを使ったり、タブレットなどを

審査講評

今回応募された作品は、水の大切さやありがたさに加えてSDGsの視点から環境問題に目を向けている作品が多くありました。

特に、市長賞の作品は、手押しポンプを動かした自分の体験から発想を広げ、浄水場だけでなく、その水源である猪苗代湖の水質にも言及し、データを基に浄水場のすばらしさや水道の大切さに感謝するという論の展開がとてもしっかりしていました。

上位に選出された作品には、自らの体験から一歩進んで地域や世界の様子へと目を向けている作品が多く見られ、次年度以降書く際に参考になる発想の仕方だと思います。

また、水道の安全にデジタル技術が使われていることについてスマートシティ構想をかかげる会津若松市にふさわしいテーマで書かれている作品もあり、新しい視点に感心させられました。これを機に普段何気なく使っている水道について考え直すいい機会だと思います。

使って知りたい情報を調べたりしています。ぼくは、便利になる事がデジタル技術なのだと思います。でも水道について学んでいく中で、デジタル技術がぼくたちの生活の安全や安心を守るために活用されているのだと気付かされました。ふだんは、目に見えない、たり気付きにくい所をデジタル技術でおぎなう。そうして集めた情報を人が判断し、安全で安心な生活につなげる。

水道は、ぼくたちの生活を守るために進化しながらきれいな水を選び続けています。じやロをひねると、いつでもどこでも安全な水が出てくる。それは、本当に幸せな事なのだとぼくは思います。

〔市長賞〕

会津若松市立一箕中学校 3年 佐藤 空成

手を洗おう

一箕中学校 三年 佐藤 空成

二〇二〇年は、人間が最も多く水道の蛇口に触れたのではないだろうか。

約三〇年続いた平成が終わり、令和という新しい時代が始まった。日本に、また新たな歴史が刻まれようとしていた矢先、「中国国内で新型コロナウイルスが流行」というテロップがテレビに映し出された。「何だ、それ」というのが、私の最初の印象だった。しかし、「

それ」は時が経つとともに、沢山のニュース番組で取り上げられるようになり、あつと、いふ間に世界中に広がってしまっただ。「それ」は見えない敵であり、誰も経験したことがないかつたため、世界中を恐怖の渦へと巻き込んだ。

そう、「それ」の正体は、新型コロナウイルス感染症である。その予防策の一つとして、流行し始めた頃から、今まで行われてきたのが「手洗い」である。

手洗いには、日常の衛生対策として、手指の衛生を心がけることで、自分自身を病原微生物から守り、感染症の拡大を防止するといふ効果があるため、私も、食事前や帰宅後など、多くの場面で手洗いをするようになった。それは、私だけでなく、日本中、世界中でも共通することだと思う。

ある日、いつも通り手洗いをしていた私は、ふと、あることを思っただ。それは、いくら節水を心がけていながらも、こんなにも多くの人が、一日に何度も手を洗ったら水が減ってしまうのではないかと、という疑問である。子供じみていながらも、調べたことには、

海の水が太陽の熱であたためられると、水蒸気になる。水蒸気は空気中で冷やされて、雲になる。そして、雨や雪となって地表に落ちる。その水は地表を流れ、川を通ってまた海に戻ってくるといふ、水の循環が行われているため、世界の水が減ったり、逆にあふれ

たりすることはないそうだが、水の循環という言葉を聞いたことはあるが、世界の水が減ることではないとなると、もう一つ疑問が生まれた。それは、水が減ることではないのなら、なぜ私達は水を節約しなければならないのだろうか。私は今まで、何も知らずに「水を大切にしよう」とか、「無駄遣いはやめよう」と言ってきたが、私以外にも、いざ聞かされると答えられない人の方が多いと思う。そこで、私はこの作文を通して、多くの人に節水をし

なければならぬ理由を知ってほしいと思った。そして、その理由を知ったうえで、世界中の人々に水を大切にすること、しないのか、という判断をしてほしいと思った。

世界では、沢山の環境問題が課題となっているが、その中の一つとして節水が大きく関わっているのではないかと私は考えた。

水道水をいっばい遣うと、各家庭や学校、アパートやマンションなどに水を供給しなればならなくなるが、そのような時は、ポン

プを使って水を汲み上げるため、大量の電力が必要となる。節水を心がけることは、節電にもつながるといふことが、私が調べたことで、ここからは、私の考えである。水道水を遣うことは、電力を大量に消費する。そして、電気を使うと、その分、二酸化炭素が排出され、二酸化炭素が原因で起こる地球温暖化を進めてしまう。つまり、水道水を遣うことは、地球温暖化を進めることと同じである。日本は、地球温暖化の影響を、身近に感じることは

はまだないが、世界の小さな島の中には、海の水位が上昇して来て、水没しつつある島もあるそうだが、そして、このまま地球温暖化が進めば、日本は富士山の頂上ぐらゐしか残らないと聞いたりすることがある。私達は地球の未来を守るためにも、節水を心がけていくべきなのだ。

では、手洗いをするのは、いけないことなのだろうか。私は手洗いをするべきだと思う。もちろん、手を洗い続けければ、想像もできない

いぐらいの水を遣うことに存り、環境に悪い影響を及ぼすだろう。しかし、私曰、コロナの影響で、自分を犠牲にしないで、医療の現場下戦う人、大切の存在を失ってしま、他人今までの努力の成果を發揮できず、悔しくて、悔しくて、涙を流す人の姿を沢山見てきた。その姿を見ていると、これ以上、増やしたくないと強く思う。だから私は、これからもう、手洗いをし続ける。そして、世界中の人々にも手洗いをしてほしい。その手洗いが、誰か

の命、自分の命を救うと思うから。
手洗い、それには、世界を救う力がある。
手洗い、それは、ヒーローだ。

〔議長賞〕

会津若松市立一箕中学校 2年 塚田 暖菜

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|----|----|---|----|----|---|---|---|----|---|---|----|---|----|----|---|
| い | 境 | は | 理 | と | に | 禍 | 品 | を | な | 私 | 感 | に | る | み | る | 品 | 無 | 水 |
| と | で | 当 | の | か | 、 | の | 質 | ひ | 限 | 達 | を | 消 | 時 | れ | の | 質 | 色 | 道 |
| 思 | 生 | た | お | か | 手 | 今 | の | ね | り | の | 抱 | え | 、 | の | は | の | 透 | 水 |
| い | ま | り | か | で | 洗 | 、 | 水 | れ | あ | 生 | き | て | 目 | お | 他 | 水 | 明 | の |
| ま | き | 前 | か | き | 、 | 新 | か | ば | る | 活 | ま | い | の | 四 | の | な | な | 一 |
| す | て | で | げ | る | ゴ | 型 | 絶 | す | 貴 | に | した | く | 透 | を | 誰 | 水 | 汚 | 箕 |
| | い | す | で | 。そ | う | コ | え | ぐ | 重 | 、 | 。水 | の | 明 | を | で | か | れ | 中 |
| | る | か | す | れ | か | ナ | 間 | に | な | 安 | は | な | な | 見 | も | 汚 | て | 学 |
| | か | ら | 。蛇 | は | い | ウ | なく | 、 | 資 | 心 | なく | 、 | 水 | た | な | い | い | 校 |
| | た | と | を | 日 | で | イル | 流 | 安 | 源 | 全 | て | 水 | ス | パ | 私 | 。世 | 。二 | |
| | 感 | そ | ひ | 本 | 惜 | ス | 水 | 全 | で | で | 水 | か | ン | 自 | 界 | 年 | 塚 | |
| | 謝 | れ | か | の | し | 感 | て | で | 世 | は | に | 白 | シ | 身 | に | に | 田 | |
| | し | と | か | 徹 | み | 染 | ま | 世 | 界 | は | 濁 | く | で | で | さ | 誇 | 暖 | |
| | な | も | 水 | 底 | な | 予 | す | に | に | 排 | 濁 | 洗 | 洗 | せ | れ | 菜 | | |
| | い | 患 | か | した | く | 防 | 。コ | 誇 | 強 | 水 | っ | い | 流 | て | る | | | |
| | い | ま | で | 水道 | 水 | の | コ | れ | い | 溝 | て | ま | し | 。油 | | | | |
| | け | 本 | る | 管 | 使 | た | ロ | る | 大 | | | | | | | | | |
| | な | 環 | の | | う | め | ナ | | 切 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|
| 利 | し | る | す | 原 | カ | | ま | み | の | に | 驚 | の | す | 消 | に | 量 | は | つ | |
| な | か | た | 。日 | 水 | 国 | 水 | す | み | 時 | 使 | き | 水 | 。世 | 費 | も | は | は | い | 蛇 |
| 世 | し | め | 本 | が | し | か | 。 | ば | 間 | 用 | ま | の | 。界 | 量 | な | い | つ | 口 | |
| の | か | 、 | は | 不 | か | あ | | 、 | を | さ | し | 量 | 。界 | 、 | い | い | を | を | |
| 中 | し | 飲 | 軟 | 衛 | あ | り | 飲 | と | 少 | わ | ま | 生 | 。界 | 世 | そ | 無 | ひ | を | |
| に | 日 | 料 | 水 | 生 | り | ま | 料 | 多 | し | て | し | 活 | 平 | 日 | う | 駄 | か | を | |
| な | 本 | と | で | で | ま | せ | に | く | 短 | い | る | か | 均 | 一 | に | に | 木 | を | |
| る | の | し | 、 | 適 | ん | 。 | 適 | の | く | る | の | で | の | 人 | 。 | 使 | ば | を | |
| に | 安 | て | 豊 | し | 。 | 水 | し | 水 | す | の | ふ | 、 | 々 | 々 | い | す | す | を | |
| つ | 全 | 使 | か | い | 水 | の | て | を | る | 、 | 一 | 私 | は | 、 | か | か | に | を | |
| れ | 安 | 用 | な | 国 | 硬 | 硬 | い | 節 | た | 人 | 人 | 達 | 私 | 世 | た | て | 水 | を | |
| 、 | 心 | す | 原 | か | 度 | 度 | る | 約 | け | 一 | 一 | 日 | 達 | 界 | り | し | か | を | |
| マ | た | こ | 水 | 多 | か | か | 国 | さ | も | 人 | 人 | 本 | 本 | 第 | 二 | ま | 手 | を | |
| イ | 水 | こ | に | い | 高 | 高 | は | き | 、 | か | か | の | 人 | 二 | 位 | ま | 入 | を | |
| ク | 道 | か | 恵 | そ | か | か | 世 | と | 日 | シ | シ | 半 | の | 相 | の | る | た | を | |
| ポ | 水 | 可 | ま | う | た | た | 界 | 思 | 本 | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いた | ま | 磨 | い | 原 | ま | は | ポ | | の | る | ま | の | る | 二 | 縄 | 検 | 日 | は | チ |
| 事 | れ | き | まし | 因 | う | は | ラ | 下 | で | 品 | せ | 水 | と | 個 | 県 | 出 | 本 | は | ッ |
| に | て | 粉 | した | は | そ | は | ス | 水 | 、 | 質 | ん | 道 | 、 | 検 | で | さ | の | 汚 | ク |
| 驚 | い | 、 | 。私 | は | う | は | キ | 処 | と | の | で | 水 | 検 | 一 | か | 水 | 染 | の | の |
| ま | 、 | 洗 | にあ | は | そ | は | ッ | 理 | も | 素 | し | か | 出 | 立 | ま | 道 | の | 被 | 汚 |
| ま | 使 | 剤 | ま | は | う | は | ク | 場 | 悲 | 晴 | い | さ | さ | 方 | ま | 道 | 害 | 染 | の |
| した | う | に | した | は | そ | は | か | で | し | し | 日 | 水 | 水 | メ | ま | 道 | を | の | の |
| 。 | た | も | 、シ | は | う | は | 除 | 九 | く | い | 本 | 事 | た | ト | 。 | も | 受 | の | の |
| 化 | け | マ | ヤ | は | そ | は | 去 | 十 | な | 日 | 実 | た | 。 | ル | 。 | ク | け | の | の |
| 学 | で | イ | ン | は | う | は | さ | 九 | り | 本 | に | た | 。 | 当 | 。 | ロ | 始 | の | の |
| 合 | 汚 | ク | プ | は | そ | は | れ | パ | ま | の | は | た | 。 | た | 。 | ポ | め | の | の |
| 成 | 染 | ポ | ール | は | そ | は | ま | ー | す | 水 | 。 | た | 。 | は | 。 | ラ | ま | の | の |
| 織 | の | ラ | ス | は | そ | は | か | セ | か | は | 。 | た | 。 | は | 。 | ス | ま | の | の |
| 維 | 手 | ス | キ | は | そ | は | 、 | ン | 、 | 。 | 。 | た | 。 | は | 。 | キ | ま | の | の |
| の | 助 | ッ | ック | は | そ | は | 極 | の | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | は | 。 | ッ | ま | の | の |
| 服 | け | ク | か | は | そ | は | 小 | 二 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | は | 。 | ク | ま | の | の |
| を | し | か | 含 | は | そ | は | の | イ | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | は | 。 | ク | ま | の | の |
| 洗 | て | 言 | 言 | は | そ | は | 粒 | ク | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | は | 。 | ク | ま | の | の |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|----------------------|------------|------------|---------------------|-----------------------|---------------------|----------------------|-------------------|-----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| ば、一人一人の行動を変えしか道はないの | が、一人一人の行動を水道水を飲むか嫌なら | 水を飲みたいから水道 | 思います。二人の水道 | マイクプロスチックの量は倍増していくと | 施設に流水をためたら、水道水から検出される | ても、際限なくマイクプロスチックが処理 | とんぼに日本の水道のシステムが優れている | 私自身の行動も原因の一部だったの。 | に嘆き悲しんでいた自分に嫌気がさしました。 | か、検出された原因を知ると世帯に、一方的 | 水まじりの水道水からマイクプロスチック | きつければ、無知な事は罪な事だと気付かせ | うと世帯に目を背けていた現実を目の前に突 | を量産していた事実には愕然としました。知 | 私の何気ない行動が、マイクプロスチック | またマイクプロスチックになっしまったいます。 | 洗うと、すり減ったスポーン部分からそのま | ラズチックが流れ出ます。食器をスポーンで | 濯する度に、数千から数百万個のマイクプロ |
|---------------------|----------------------|------------|------------|---------------------|-----------------------|---------------------|----------------------|-------------------|-----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|--------------------|---------------------|-------------------|
| を込めて恩返しをした。いきたく思っています。 | も私達を温かく支えてくれる水道水に感謝 | みの派に見えるのは私だけ。水道水の悲し | す。水道から流れる落ちる水は、水道水の悲し | 恨まれるのも、私達一人一人の選択の結果で | 色に染めるのも、負の連鎖に染め次の世代に | 目の前にはある無色透明の水、希望に満ちた | 動し、共に水道水を守っていきませんか。 | ただ待つのではなく、一人一人が意識して行 | 処理システムが発展するかもしれないか、 | て引き継ぐのでしようか。科学の進歩により | ロプロスチックの入り口の水道水を負の遺産とし | す。私達の次の世代に、今の何倍ものマイク | 起こさないと、いけない時にきていると思いま | ガラスチック製品の使用を控える等、行動を | くれていた水道水をこれ以上汚さないように、 | 一年中いつでも好きな時に安全安心を届けて | っ。水を汚しているのは私達自身です。 | 水道水と違って帰ってくるマイクプロスチ | ではないのでよいか。水に流れていき |
|------------------------|---------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|--------------------|---------------------|-------------------|

■ 審査講評

コロナ禍で、手洗いやうがいなどの感染予防対策が日常の習慣になっていて、改めて「水（水道水）」について考え、安全、安心がいかに重要なのかということが中学生らしい視点で表現や構成を工夫して書かれていました。

また、地震などの災害時のインフラの問題や最近問題視されているマイクロプラスチックなど広い視野から考えた作品もありました。

今まで、当たり前前だと思っていたことが、実はとても貴重で大切だったということが、一般論ではなく実感として伝わってくる作品が多かったのも今年ならではだと感じました。

◆審査員

| | |
|--------------------|-----------|
| ○ 図画の部…会津若松市立松長小学校 | 長澤 久仁 先生 |
| 会津若松市立第一中学校 | 埜渡 さえ子 先生 |
| 水彩連盟会津 | 森田 慶一 先生 |
| ○ 書写の部…会津若松市立一箕中学校 | 小坂 ひろみ 先生 |
| 会津若松市立第二中学校 | 佐藤 純子 先生 |
| 会津書作家協会 | 山内 昇 先生 |
| ○ 標語の部…会津若松市立河東学園 | 柳沼 涼華 先生 |
| 会津若松市立第四中学校 | 佐藤 玄太 先生 |
| あいづ川柳会 | 小林 悟 先生 |
| 会津詩人協会 | 福西 トモ子 先生 |
| ○ 作文の部…会津若松市立神指小学校 | 石川 要一朗 先生 |
| 会津若松市立第五中学校 | 村松 和弘 先生 |
| 会津史学会 | 庄司 裕 先生 |

★おわりに★

ここに掲載されている作品は、上下水道局のホームページでもご覧いただけます。

他に、優秀賞、佳作も含めた全ての入賞作品が全国展に送られ、審査されます。

みなさんからのたくさんのご応募、ありがとうございます。来年も多くの作品をお待ちしております。

第63回水道週間児童生徒作品展入賞作品集

令和3年7月発行

発行 会津若松市上下水道局

編集 上下水道局総務課

〒965-0064 福島県会津若松市神指町大字黒川字石上33-2

TEL (0242) 22-6073 / FAX (0242) 22-6173

<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/bunya/suido/>